

【短報】伊豆大島で採集されたゴミムシダマシ科数種

伊豆諸島大島の甲虫のまとまった記録としては、神谷（1931）が同島の昆虫相を整理した中で20種を報告しているのが最初である。このうちゴミムシダマシ科は、キマワリ *Plesiophthalmus nigrocyaneus* Motschulsky, 1858 とニジゴミムシダマシ *Tetraphyllus paykullii* (Dalman, 1823) の2種を挙げている。その後今日までに、数名の研究者の10編に満たない論文や短報によって、大島のゴミムシダマシ科に関する情報は追加されている。

筆者の一人亀澤は、2012年10月1～4日および2013年5月27～31日に大島において甲虫類の調査を行った。その際に伊豆諸島または同島からの記録が見当たらない種を含むゴミムシダマシ科数種を確認しているので以下に採集目録を示す。大島から初記録にあたると思われる種については、種名のあとに*印を振った。また、すべての地名に共通する「東京都大島町」と採集者名は省略した。学名、種の配列は Löbl *et al.* (2008) に従った。

1. アラメヒゲブトゴミムシダマシ *Luprops cribrifrons* (Marseul, 1876) *
2 exs., 元町津倍付, 4. X. 2012.
伊豆諸島初記録と思われる。林縁のシフティングによって得られた。
2. ホソハマベゴミムシダマシ *Micropedinus pullulus* (Boheman, 1858) *
6 exs., 野増間伏砂の浜海岸, 30. V. 2013.
伊豆諸島初記録と思われる。砂浜のゴミ下より得られた。
3. ニセハマヒョウタンゴミムシダマシ *Idisia vestita* Marseul, 1876*
4 exs., 野増間伏砂の浜海岸, 30. V. 2013.
砂浜のゴミ下より得られた。伊豆諸島からは、平野ら（1993）による新島からの記録のみが知られていた。なお、梅谷（1952）は本種の酷似種ハマヒョウタンゴミムシダマシ *I. ornata* Pascoe, 1866 が大島に生息することに言及しているが、今回、確認できなかった。
4. オオマルチビゴミムシダマシ *Caedius maderi maderi* Kaszab, 1942 *
6 exs., 野増間伏砂の浜海岸, 30. V. 2013.
砂浜植生の根際の砂中およびゴミ下より得られた。伊豆諸島からは、新島（平野ら, 1993）、三宅島（渡辺・相馬, 1972）から知られていた。
5. コスナゴミムシダマシ *Gonocephalum coriaceum* Motschulsky, 1858 *
1 ex., 泉津原野, 27. V. 2013.
ススキ株まわりの枯れ草の堆積を篩うことで得られた。伊豆諸島からは、新島（梅谷, 1956a）、八丈島（上田ら, 1994）、八丈小島（高橋, 2011）から知られ、Masumoto (1985) は伊豆諸島を分布域としている。
6. ミヤケスナゴミムシダマシ *Gonocephalum miyakense* Nakane, 1963
1♀, 泉津原野, 28. V. 2013; 1♂, 泉津福重, 31. V. 2013.
これまで伊豆諸島からのみ知られる種で、大島（Masumoto, 1985）、新島（平野ら, 1993）、神津島（Masumoto, 1985）、三宅島（Nakane, 1963）、御蔵島（澤田・渡辺, 1969）、八丈島（川畑, 2010）からの記録がある。大島で「砂漠」と呼ばれる地帯の砂地とススキ草地の境界の地表、および舗装道路上で得られた。
7. コマルムネゴミムシダマシ *Tarpela brunnea* (Marseul, 1876) *
1♀, 元町三原山, 31. V. 2013.
林縁のビーティングで得られた。伊豆諸島からは、新島（平野ら, 1993）から記録がある。ミニコミ誌で高桑正敏博士が大島で同属種（種未決定）を採集されているくだりがある。本種はタイプ亜種のほかに、トカラ亜種 *T. b. konoi* Nakane, 1963 がトカラ中之島から知られている。大島産の1♀を見るかぎり、トカラ亜種のように前胸背の正中溝は痕跡的でほとんど認めがたいが、前胸側縁は明らかに平圧され、この点はタイプ亜種の特徴を示していた。
8. エグリゴミムシダマシ *Uloma (Uloma) marseuli marseuli* Nakane, 1956 *
1♂1♀, 泉津福重, 2. X. 2012.
朽ち木中から得られた。伊豆諸島からは、新島（Masumoto & Nishikawa, 1986）、三宅島（渡辺・相馬, 1972）、御蔵島（澤田・渡辺, 1969）、八丈島（川畑, 2010）から記録がある。
9. アオツヤキノコゴミムシダマシ *Platydemia marseuli* Lewis, 1894*
2 exs. (ライトトラップ), 泉津福重, 27-28. V. 2013.
伊豆諸島からは、新島（平野ら, 1993）、三宅島（渡辺・相馬, 1972）、御蔵島（澤田・渡辺, 1969）、八丈島（川畑, 2010）、八丈小島（沢田・渡辺, 1959）から記録がある。

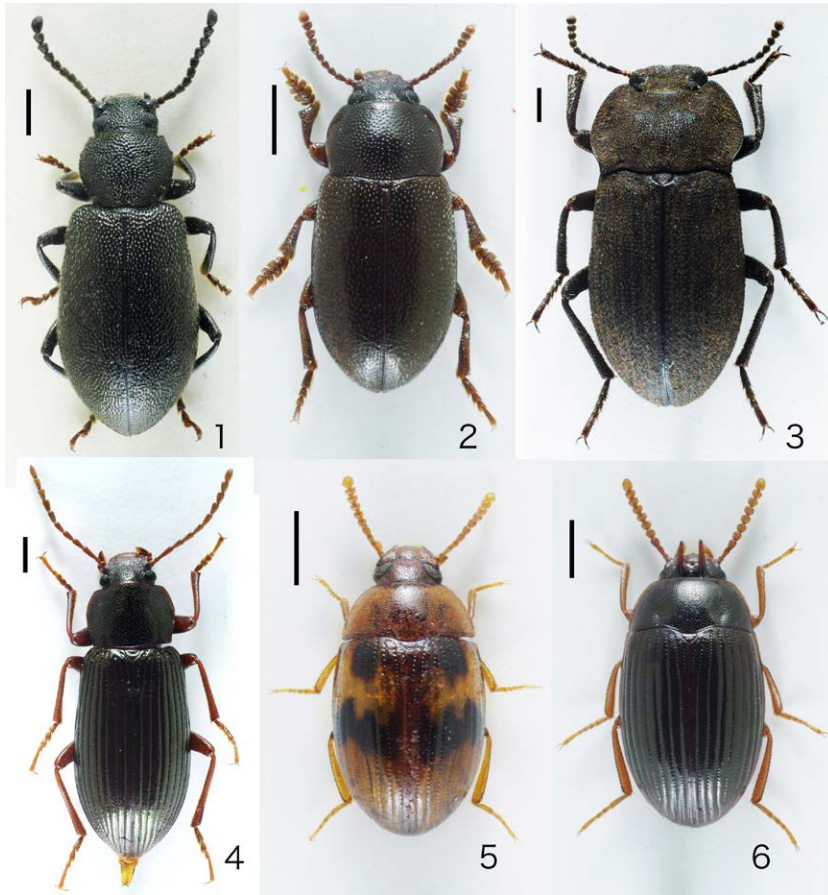


図1-6. 伊豆大島から採集したゴミムシダマシ類. 1, アラメヒゲブトゴミムシダマシ; 2, ホソハマベゴミムシダマシ; 3, ミヤケスナゴミムシダマシ; 4, コマルムネゴミムシダマシ; 5, ヒメオビキノコゴミムシダマシ; 6, ツノボソキノコゴミムシダマシ (すべて伊豆大島産, スケールは1 mm) .

10. ヒメオビキノコゴミムシダマシ *Platydema nigropictum* Nakane, 1963 *
20 exs., 泉津福重, 2. X. 2012.
伊豆諸島初記録と思われる。
11. クロオビキノコゴミムシダマシ *Platydema pallidicolle* (Lewis, 1894) *
5 exs., 泉津福重, 2. X. 2012.
伊豆諸島からは, 三宅島(渡辺・相馬, 1972) からの記録のみが知られていた。
12. ツノボソキノコゴミムシダマシ *Platydema recticoirne* Lewis, 1894*
8 exs., 泉津福重, 2. X. 2012; 1ex. (ライトトラップ), 同地, 27-28. V. 2013.
伊豆諸島初記録と思われる。
13. ベニモンキノコゴミムシダマシ *Platydema subfascia subfascia* (Walker, 1858) *
20 exs., 泉津福重, 2. X. 2012; 5 exs., 同地, 27. V. 2013.

秋季には, 以上の同属3種とともにキノコの生えた朽ち木から同時に得られた。

伊豆諸島からは, 新島(平野ら, 1993), 神津島(梅谷, 1956b), 三宅島(渡辺・相馬, 1972), 御蔵島(澤田・渡辺, 1969), 八丈島(上田ら, 1994)から記録がある。

14. オオクチキムシ *Allecla (Upinella) fuliginosa* Mäklin, 1875

2 exs., 泉津福重, 2. X. 2012.

伊豆大島からは西川(1951)による古い報告があると大野(1977)が指摘している。伊豆諸島からはほかに八丈島(上田ら, 1994)から知られる。立ち枯れの浮いた樹皮下より得られた。

15. ズビロキマワリモドキ伊豆諸島亜種 *Gnesis helopioides fujitai* Akita et Masumoto, 2013

2 exs., 泉津原野, 28. V. 2013.

ススキ株まわりの枯れ草の堆積を篩うことで得られた。大島からは長尾(1976)のほか, 最近, 御蔵島をタイプ産地として伊豆諸島亜種が記載されたなかにも大島産がタイプシリーズに含まれる。

ほかの伊豆諸島からは利島, 新島, 神津島, 御蔵島, 八丈島から知られ, すべてが伊豆諸島亜種とされている (Akita & Masumoto, 2013).

以上, 15 種を確認した. その多くは普通種であるが, 伊豆諸島初記録 4 種, 大島初記録 12 種を含んでいた.

今回の調査は, 時期や調査地点, 採集法も限られる. また, 伊豆諸島最北の大島からは伊豆諸島の他島からは確認されていない本土との共通種がほかの甲虫でも少なからず記録されている. そのため, 将来, 調査が進めば, これまで伊豆諸島から確認されているが大島からは確認されていない種, それ以外の種からもさらなる追加種が見込まれる.

末筆ながら, コマルムネゴミムシダマシの標本を確認して下さった秋田勝己氏と益本仁雄博士に心より御礼申し上げます.

なお, 伊豆大島での調査は科研費 (24510333; 研究代表者: 小島弘昭) の助成を受けて行われた.

引用文献

- Akita, K. and K. Masumoto, 2013. New or little-known tenebrionid species (Coleoptera) from Japan. *Elytra*, Tokyo, new series, 3(2): 237–254.
- 平野幸彦・上田康之・渡 弘・吉田篤人, 1993. 伊豆新島産甲虫類採集記録. 神奈川虫報, (104): 1–12.
- 神谷一男, 1931. 伊豆大島産甲虫類に就いて (予報). 科学の農業, 12(2): 19–25.
- 川畑喜照, 2010. 伊豆諸島八丈島の甲虫 VI. 神奈川虫報, (170): 21–30.
- Löbl, I., O. Merkl, K. Ando, P. Bouchard, M. Lillig, K. Masumoto, and W. Schawaller, 2008. Tenebrionidae. 105–352 pp., In Löbl, I. and A. Smetana eds., *Catalogue of Palaearctic Coleoptera Vol. 5, Tenebrionoidea*, Apollo books.
- Masumoto, K. 1985. The Japanese species of the genus *Gonocephalum* (Coleoptera, Tenebrionidae). *Elytra*, Tokyo, 12(2): 27–37.
- Masumoto, K. and N. Nishikawa, 1986. Revisional study of the species of the genus *Uloma* from Japan, Korea and Taiwan (Tenebrionidae, Coleoptera). *Insecta Matsumurana*, new series, (35): 17–43.
- 長尾 悟, 1976. 伊豆諸島のズビロキマワリモドキ. *Damaster*, 3(1): 4.
- Nakane, T., 1963. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions XIX. *Frangmenta Coleopterologica*, (6/7): 26–30.
- 西川協一, 1951. 大島. *Insect Magazine*, (6): 8.[未見]
- 大野正男, 1977. 伊豆大島の昆虫相 (1) 文献資料篇. 東洋大学紀要教養課程篇, (20): 89–102.
- 澤田玄正・渡辺泰明, 1959. 八丈小島の昆虫相. 東京農業大学農学集報, 5 (2): 47–64.
- 澤田玄正・渡辺泰明, 1969. 御蔵島の昆虫相. 東京農業大学農学集報, 14(1): 1–48.
- 高橋 敏, 2011. ゴミムシダマシ科. pp. 29–123, 初宿成彦(編) 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録 (1) ゲンゴロウ科, ゴミムシダマシ科, ナガクチキムシ類. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 43 集.
- 上田康之・高崎鉄也・露木繁雄・吉田篤人・渡 弘, 1994. 神奈昆有志による八丈島甲虫採集報告. 神奈川虫報, (108):

- 1–14.
- 梅谷献二, 1952. 伊豆大島春の昆虫. 採集と飼育, 14 (6): 167–169, 179.
- 梅谷献二, 1956a. 新島見聞記, 伊豆七島昆虫風土記 III. 新昆虫, 9(3): 8–13.
- 梅谷献二, 1956b. 神津島, 伊豆七島昆虫風土記 IV. 新昆虫, 9(9): 34–38.
- 渡辺泰明・相馬州彦, 1972. 三宅島の昆虫相. 東京農業大学農学集報, 17(1): 1–58.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

(野村周平 国立科学博物館動物研究部)

【短報】熊本県におけるコメツキムシ科甲虫の4未記録種, および総種数

Lewis (1894) は, 日本からコメツキムシ科 104 種を記録したが, そのうち少なくとも 39 種は Lewis 本人が 1881 年 4 月中旬から 5 月下旬に熊本県を訪れて採集したものである (北野, 1974). このことから, 熊本県がコメツキムシ科甲虫の研究において重要な地域であることは疑いようがない. 熊本県における分布記録は, 松浪ら (1974), 大塚ら (1977), 大塚ら (1979) によくまとめられており, この時点で 112 種が確認されていた. これ以後も, 熊本昆虫同好会報においてコメツキムシ特集号が組まれるなど, 多くの分布記録が蓄積されてきた (e.g. 城戸, 1980; 大塚ら, 1985; 大塚, 1996, 1997, 1999, 2001, 2003, 2005; 中島, 1997, 2000, 2001). しかし熊本県に分布する本科の明確な種数は明らかでない. 筆者は, これまで熊本県から未記録と思われる種を複数得ているため, 以下に報告するとともに, 種々の分類学的な変更を考慮した上で, 熊本県から記録された種数の集計を行った.

1. ムラサキヒメカネコメツキ *Limonius eximia* (Lewis, 1894)

1♂ (図 1), 熊本県八代市白鳥山, 4–6. V. 2012, 伊藤玲央採集・筆者保管.

本州, 四国, 九州各地から記録されており, 九州からは福岡県 (高倉, 1970), 大分県 (城戸, 1997; 堤内, 2006) から記録されている. 本個体は, チドリノキ *Acer carpinifolium* の花を摘んで得られた.

2. クロサワツヤケシコメツキ *Megapenthes kurosawai* Suzuki, 1986

1♀, 熊本県八代市白鳥山, 15. V. 2011, 筆者採集・保管; 2♂♂ (図 2), 同所, 4–6. V. 2012, 伊藤玲央採集・筆者保管.

分布の北限は青森県で本州, 四国各地から記録